

東京大学 文書館ニュース

The University of Tokyo Archives Newsletter

vol. 53, Nov. 2014

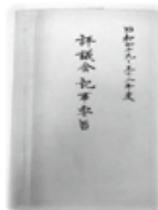
Contents

- 2 ご挨拶
東京大学文書館長 佐藤 慎一
- 4 収蔵庫等における害虫モニタリング調査について
東京大学文書館 村上こずえ
- 6 受贈図書・刊行物一覧（抄）
（2014年2月～2014年7月）
- 7 業務日誌（抄）・照会内容のご紹介
- 8 文書館トピックス

1974

東京大学百年史編集委員会
規則の制定
昭和四十九-五十二年度 評議
会記事要旨

1974年5月21日開催の評議会で承認・施行
されました。



1987

東京大学史史料室規則の制定
東京大学起案書（総長決裁）

1987年4月21日開催の評議会で可決されました。



2014

東京大学文書館本館

2014年4月現在、本館本館は医学部1号館内に構えています。



東京大学文書館柏分館の閲覧室

理系中心の柏キャンパスの中では異色の存在です。



2014年4月に、東京大学文書館が
設置されました。東京大学百年史
編集委員会、東京大学史史料室を
経て、新しくスタートしました。

写真の「学内広報 no. 1456」では
当館の特集が組まれています。
学内広報は東京大学HPでもご覧
になれます。

<http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/kouhou/1456/index.html>



東京大学文書館
The University of Tokyo Archives

ご挨拶

東京大学文書館長 佐藤 慎一

東京大学文書館（以下、単に文書館という。）は、2014年4月1日に設置された、東京大学で最も新しい組織です。

文書館設置の背景にあるのは、2009年に制定されたいわゆる公文書管理法で、この法律により、全ての国立大学法人は、法人文書や歴史公文書の管理・保存・公開が義務づけられました。この動きは、巨視的に言えば政府の情報公開推進の動きと密接な関係があり、東京大学はこの動きに前向きに対応するため、1987年に設置された東京大学史史料室を改組拡大する形で、文書館を設置したものです。

こうした背景を踏まえて、文書館には、大学史部門、法人文書部門、およびデジタルアーカイブ部門という3つの部門が置かれています。

大学史部門は、前身である東京大学史史料室（以下、単に史料室という。）を継承する部門です。史料室は、『東京大学百年史』編纂の過程で収集された多数の貴重な史料を整理、公開するために設置されました。大学史部門は史料室のこの役割を継承しますが、同時に、史料室にはなかった新しい役割を果たすこととなります。それは、『東京大学百五十年史』の編纂に貢献するという役割です。

1877年に設立された東京大学は、今から13年後の2027年に創立150周年を迎えることとなります。創立150周年に大学として何をやるのかということは現時点では未定であり、おそらくは2015年4月に就任する次期総長のもとで計画が練られるものと思いますが、1927年の創立50周年を記念して『東京大学五十年史』が編まれ、1977年の創立100周年を記念して『東京大学百年史』が編まれたという先例に照らせば、創立150周年を記念して『東京大学百五十年史』を編纂するという方針が立てられる可能性は高く、そうなった場合には、大学史部門は編纂作業における中核的役割を担うことになるはずです。

法人文書部門は、公文書管理法が東京大学に求める、

法人文書や歴史公文書の管理・保存・公開という役割を果たすために新設された部門です。この部門がその役割を十全に果たすためには、当面ふたつのことが必要ですが、いずれも決して簡単なことではありません。ひとつは、内閣府に申請して、公文書管理法に規定する「国立公文書館等」としての指定を受けることで、指定を受けるためには、内閣府が求める様々な条件を満たさなくてはなりません。申請手続きは既に開始されており、年度内に指定を得ることを目指しています。

いまひとつは、事務の現場から文書館へ非現用文書を移管するための、最善のシステムを作り出すことです。文書館が整理・保管・公開する法人文書は、学内の各部局と部署で保存期間が終了した法人文書ですが、当然のことながら、保存期間が終了した全ての法人文書を集めたら、文書館はたちまちパンクしてしまいます。ですから、重要な法人文書のみ文書館に移管し、また重要な法人文書は必ず文書館に移管するシステムを作り出さなくてはなりません。このシステム作りは、とても難しい課題です。というのも、強固な部局自治の歴史を持つ東京大学では、管理運営の具体的な仕組みが部局によって異なり、文書管理の仕組みもまた部局によって異なるからです。文書館としては、目下は各部局における文書管理の実状把握に努めているところですが、いずれは各部局に無用な混乱を起こさないように配慮しつつ、必要最小限の統一性を持つ全学的な行政文書移管のルールを定めて頂く必要があると考えています。

デジタルアーカイブ部門は、文書館の将来を睨んで設けた部門です。公文書管理法は文書館に移管されたものの廃棄を禁じており、また現に移管されるものの大部分が紙媒体の資料であるため、紙媒体資料の保存は文書館にとって避けられない義務なのですが、デジタル技術が高度化しつつある現在、保存された紙媒体資料をデジタル化すれば、その利活用の範囲が飛躍的に拡大し、学内外のニーズにより迅速に応えられるだけでなく、保存文書に対する多様なニーズを新たに生

み出すことは確実です。未来の文書館が社会の期待に応えるためには、この萌芽的な部門を今から大切に育てていく必要があります。

東京大学史料室の最後の室長で、文書館の制度設計を担当した吉見俊哉文書館副館長（情報学環教授）は、文書館の産みの親と言うべき存在ですが、デジタルアーカイブ部門設置の狙いについて、以下のように説明しています。

モノとしては異質な本と博物資料と文書も、デジタルなら同じ扱いができ、図書館と博物館と文書館がつながることができる。知のインフラをつくる3機関の連携で本学の知識基盤はさらに高度化するはずです。

欧米の大学では、ライブラリーとミュージアムとアーカイブスが、大学における知のインフラの3本柱として、それぞれ重要な役割を果たしています。東京大学の場合、歴史のある図書館や学内外で積極的な活動を展開する博物館に比べて、設置されたばかりの文書館は余りに脆弱であり、学内の認知度も低く、3本柱のひとつであるとはとうてい言い難いのが現在の姿です。文書館が3本柱のひとつとして成長するためには、図書館および博物館との連携が不可欠であり、このデジタルアーカイブ部門こそが連携のインターフェイスになるはずです。

3つの部門を擁して誕生した文書館は、その高い理想にもかかわらず現状は非力であり、理想を実現するのに必要と私たちが考える水準に照らせば、人員と施設面積と予算の全てが不足しています。教員は、他部局に仮配置してあった教員ポストを文書館に移しつつある途中ですが、専門的アーキビストである文書館専属の教員は、移行が終了する段階で准教授1名と特任助教1名になるはずです。他に、教務補佐員3名と事務補佐員1名が、文書館の日常業務をサポートしています。これが、文書館で働く人員の全てです。

施設については、安田講堂内部に置かれていた史料室が安田講堂の耐震補強工事のために使えなくなったため、柏キャンパスに文書館柏分館を設けて史料室が保管していた文書の大部分を移しましたが、医学部1号館に仮住まいしている文書館本館と合わせても、施設の床面積は狭隘で、法人文書の本格的な移管が始まればすぐにパンクしてしまうことは、目に見えています。

とはいえ、人員と施設面積と予算の不足は、法人化以降、東京大学の全ての部局が味わっている苦しみであり、文書館のみが味わっている苦しみではありません。文書館の館長がいかにも大声で泣き喚いても、多くの部局長は、「うちも同じです」とおっしゃるに違いありません。こうした中で文書館が発展を遂げるためには、乏しい資源をやりくりして活動の実績をあげ、学内諸組織との連携を強化することを通じて文書館に対する認知度を高め、「文書館は東京大学にとって必要な組織だ」と考えてくださる教職員と学生の数を増やすことが、不可欠になります。

このニューズレターが、そうした文書館と学内諸組織の連携を支える場になってくれることを、私は願っています。文書館の側からは、文書館が何を目指して現にいかなる活動をしているのかを、学内の教職員と学生の皆さまに発信してまいります。皆さまからは、文書館に対する意見や注文、期待や不満等を、遠慮なくお寄せください。

文書館の発展のためには、法人文書（もしくは行政文書）や歴史公文書の管理・保存・公開に関わりを持つ方たち、特に他の国立大学の文書館関係者との連携も欠かせません。国立大学における文書館の整備は地方自治体と比べて遅れていますが、国立大学の中では西日本の諸大学が先行しており、東京大学はスタートの時点で周回遅れというのが偽らざる実状です。先行する大学文書館も、その道のりは決して平坦なものではなく、どの大学文書館も大変な苦勞のち現在の地歩を築かれたと聞いています。東京大学文書館は、そうした先輩たちの苦勞から多くのことを学ばせて頂きたいと思っています。そして、デジタルアーカイブ化が全ての大学文書館に共通する課題であり、かつ単独の大学では解決できない課題であることを考えると、大学文書館相互の連携強化もまた、不可避の課題であると思われます。このニューズレターが大学文書館の連携の場として多少なりとも貢献することができれば幸いです。

（さとう しんいち：東京大学文書館長）

収蔵庫等における害虫モニタリング調査について

東京大学文書館 村上こずえ

1 はじめに

東京大学文書館は、百年史編集室の頃より使用していた安田講堂が、平成23年に耐震補強を含めた全面改修が行われることとなり、移転を余儀なくされた。安田講堂に収蔵されていた資料は、スペースの問題から本郷地区と柏地区に分蔵されることとなった。移転後の平成23年6月19日に、文書館と総合図書館が保管する東京大学の公文書記録類のうち、江戸時代末期から新制大学発足までの1,093点（うち776点を文書館収蔵）が重要文化財の指定を受けた。現在は、公文書管理法における国立公文書館等として来年度（平成27年度）の指定を目指しているところである。これらのことから、保存環境の改善および今後法人文書等の受け入れが増えることが予想されるため、現状の把握をしておくことが重要と考え、当館では初めてとなる害虫モニタリング調査を開始した。

2 収蔵状況について

資料の収蔵状況は、先にも書いた通り仮移転先である本郷地区と柏地区に分かれており、本郷地区には重要文化財指定を受けた資料を含む法人文書資料および総長資料・個人寄贈資料等が収められている。柏地区には、法人文書および個人寄贈資料、図書等が収められている。どちらも仮移転先であるため、環境については整備できた部分（美術・博物館用蛍光灯一部設置、暗幕一部設置など）と整備できなかった部分（床の材質変更など）がある。今回モニタリングを行うこととした収蔵庫等の状況を表1に示す。

3 トラップ設置および調査結果

3-1 トラップ設置

表1の通り、本郷地区の収蔵庫2ヶ所、柏地区の収蔵庫2ヶ所および柏地区の事務室兼閲覧室エリア（収

項目 エリア名	場所	面積	使用用途	収蔵資料等	エリア内環境	トラップ 設置数	その他
本郷1	本郷地区 建物1階	37㎡	収蔵庫	法人文書（重要文化財指定文書含む）およびモノ資料	床ビニール、美術・博物館用蛍光灯、空調（ドライ）24時間*、窓あり（ブラインド閉）、データロガー1台、清掃月2回（業者による）	5	*湿度70%超えたため、6/24より空調24時間稼働
本郷2	本郷地区 建物1階	22㎡	収蔵庫	寄贈資料（総長文書他、個人資料）、資料図書類	床ビニール、美術・博物館用蛍光灯、空調（ドライ）24時間*、窓あり（ブラインド閉）、データロガー1台、清掃月2回（業者による）	5	*湿度70%超えたため、6/24より空調24時間稼働
柏1	柏地区 建物6階	210㎡	収蔵庫	法人文書、寄贈資料、その他（刊行物バックナンバー等）	床カーペット、一般蛍光灯、空調（ドライ）24時間*、除湿器24時間**、窓あり（ブラインドおよび暗幕閉）、データロガー2台、清掃月1回程度（館員による）***	7	*7/1より日中のみ、9/2より空調24時間稼働（館員が常駐するまでは週に1日程度日中のみ空調稼働） **8/5より除湿器24時間稼働 ***清掃は常駐するまで行っていなかった
柏2	柏地区 建物6階	54㎡	閲覧室兼事務室	資料図書	床カーペット、一般蛍光灯、空調（ドライ）24時間*、窓あり（ブラインド一部閉および暗幕開）、データロガー1台、清掃月1回程度（館員による）**	4	*7/1より日中のみ、9/2より空調24時間稼働（館員が常駐するまでは週に1日程度日中のみ空調稼働） **清掃は常駐するまで行っていなかった
柏3	柏地区 建物6階	127㎡	収蔵庫	図書・雑誌	床カーペット、一般蛍光灯、空調（ドライ）24時間*、窓あり（ブラインドおよび暗幕閉）、データロガー1台、清掃月1回程度（館員による）**	7	*7/1より日中のみ、9/2より空調24時間稼働（館員が常駐するまでは週に1日程度日中のみ空調稼働） **清掃は常駐するまで行っていなかった

表1 収蔵庫等の状況

蔵庫の一部（間仕切り）のため）の5ヶ所のモニタリングを行った。調査方法は、両地区とも昆虫調査用の粘着捕獲器¹を使用し、出入り口付近や部屋の四隅を中心に設置した。設置後1ヶ月毎に確認を行った。

3-2 調査結果

捕獲した虫は、『文化財害虫事典』²を参考に害虫と害虫以外に分類し、害虫については種類を同定し、侵入方向（頭の向き）について記録を取った。捕獲された虫の数と内訳を表2に示す。

エリア名	害虫の分類	調査月			
		6月	7月	8月	9月
本郷1	シミ目	0	0	0	0
	ゴキブリ目	0	0	0	0
	チャタテムシ目	4	10	19	12
	コウチュウ目	0	0	0	0
	チョウ目	0	0	0	0
	その他(害虫以外)	8	14	9	10
	本郷1 小計	12 (4)	24 (10)	28 (19)	22 (12)
本郷2	シミ目	0	0	1	0
	ゴキブリ目	0	0	0	0
	チャタテムシ目	2	6	11	17
	コウチュウ目	0	0	4	0
	チョウ目	0	0	0	1
	その他(害虫以外)	27	28	44	16
	本郷2 小計	29 (2)	34 (6)	60 (16)	34 (18)
柏1	シミ目	0	0	0	0
	ゴキブリ目	0	0	0	0
	チャタテムシ目	3	21	42	11
	コウチュウ目	1	0	0	0
	チョウ目	1	0	1	0
	その他(害虫以外)	153	10	7	4
	柏1 小計	158 (5)	31 (21)	50 (43)	15 (11)
柏2	シミ目	0	0	0	0
	ゴキブリ目	0	0	0	0
	チャタテムシ目	1	4	5	2
	コウチュウ目	0	1	0	0
	チョウ目	0	0	0	0
	その他(害虫以外)	65	4	2	1
	柏2 小計	66 (1)	9 (5)	7 (5)	3 (2)
柏3	シミ目	0	0	0	0
	ゴキブリ目	0	1	2	0
	チャタテムシ目	2	25	27	5
	コウチュウ目	1	1	0	0
	チョウ目	0	0	0	0
	その他(害虫以外)	42	4	4	4
	柏3 小計	45 (3)	31 (27)	33 (29)	9 (5)
捕虫数合計		310 (15)	129 (69)	178 (112)	83 (48)

表2 捕虫数・内訳 ※ () 内の数は害虫数（但し内数）

◇ 本郷地区

本郷地区は、調査前より館員が常駐しており、温湿度コントロールが可能であったため、4ヶ月を通して大きな変化は見られない。但し、エリア【本郷2】の8月の調査結果では、捕虫数が増加していることがわかる。その多くは害虫以外で居室出入り口付近にて捕獲されており、害虫ではない。そのため、増加の原因

は、収蔵庫がある建物は、学内の共有スペースとなっており、8月上旬にエリア【本郷2】の隣に他部署からの移動があったためと考えられる。

◇ 柏地区

6月の調査において捕虫数が多いのは、捕獲されたほとんどが害虫以外であり（表2、エリア【柏1～3】「その他(害虫以外)」）、職員が常駐しておらず高温・多湿な環境および清掃をしていなかったことが大きな要因である。

7月からは、職員が常駐し日中の空調稼働および清掃が行われたことで捕虫数（害虫以外）は減少したが、チャタテムシ目の捕獲数は増加した（表2、色付き部分）。侵入経路を見ると、その多くは外側からの侵入ではなく収蔵庫内からと判断でき、湿度の増加や資料整理（長期間閉じられていた箱の開放）によるものと考えられる。

9月からは、空調の24時間稼働を行ったため温湿度がほぼ一定（8月は日中と夜間の温湿度の差が最大13度、24%）となり、害虫の数は減少した。

4 おわりに

6～9月という高温・多湿な時期の調査であったため、収蔵庫等の環境が完全に把握できたとは言えないが、調査を実施したことにより、収蔵庫等の現状と問題点を明らかにすることができた。データロガーの結果と併せて環境の改善を行っているがまだ十分ではなく、除湿器の増設やサーキュレーターの設置および出入り口に粘着マットや隙間にブラシを設置するなど検討したい。また、長期間閉じられていた資料保存箱はカビや埃がみられるものもあるのでそれらの除去や箱の入れ替えなどの対策、および新たにカビが発生しないように目視による確認も重要と考える。

今回の調査により、館員間で問題意識を共有することができたことも成果の一つである。今後も継続的にモニタリング調査を行うことにより保存環境の把握・検討・改善に努めていきたい。

（むらかみ こずえ：東京大学文書館）

¹ イカリ消毒株式会社製インセクトトラップ（紙製）を使用

² 独立行政法人文化財研究所『文化財害虫事典 改訂版』クバプロ、2014.

受贈図書・刊行物一覧(抄) (2014年2月～2014年7月)

学外刊行物

- 大阪市立大学 大学史資料室
大学史資料室ニュース 第18号
- 大阪大学アーカイブ
大阪大学アーカイブズニューズレター 第3号
- 学習院アーカイブズ
学習院アーカイブズ・ニューズレター 第3号
- 学校法人東海大学学園史資料センター
学校法人東海大学学園史資料センター10年のあゆみ
- 関東学院学院史資料室
関東学院学院史資料室ニュース・レター 第17号
- 京都大学大学文書館
京都大学大学文書館だより 第26号
- 京都府立総合資料館
資料館紀要 第42号
- 近畿大学建学史料室
A Way of Life—Seko Koichi—：世耕弘一先生建学史料室広報 17号
- 公益財団法人渋沢栄一記念財団渋沢史料館
渋沢栄一と帝国ホテル [企画展展示図録]
- 神戸女学院史料室
学院史料 vol. 27
- 埼玉県立文書館
文書館紀要 第二十七号
- 札幌市総務局行政部公文書館
札幌市公文書館研究紀要 第6号
- 全国大学史資料協議会東日本部会会報
大学アーカイヴズ No. 50
- 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会
記録と史料 第24号
- 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国文学研究資料館
国文研ニューズ No. 34
- 大東文化歴史資料館
大東文化歴史資料館だより 第16号
- 東京外国語大学文書館
外語とポータル—学内競漕大会第百回記念—：東京外国語大学文書館 第5回企画展 [パンフレット]
- 東北大学学術資源研究公開センター史料館
東北大学史料館だより 第19・20号
- 独立行政法人国立公文書館
アーカイブズ 第52～53号
- 鳥取県立公文書館
鳥取県立公文書館研究紀要
- 名古屋大学大学文書資料室
名古屋大学大学文書資料室ニュース 第31号
- 阪神・淡路大震災記念人と未来センター資料室
阪神・淡路大震災記念人と未来センター資料室ニュース Vol. 52～53
- 広島大学文書館
広島における原爆・核・被ばく関連の史・資料の集積と研究の現況(課題番号:23300096)平成23年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果中間報告書
- 北海道大学大学文書館
北海道大学大学文書館年報 第9号

※他、多数の資料を寄贈いただきました。今後も引き続き、アーカイブズ関係刊行物のご寄贈をお待ちしております。

学内刊行物

- 本部事務 (広報課などから寄贈された刊行物) ……134点
部局事務部 (研究所や研究科などから寄贈された刊行物) ……21点

その他

個人から寄贈された資料

2013年度東京大学全学部便覧、「東京大学安田講堂改修工事現場公開」(リーフレット)、『医学生とその時代：東京大学医学部卒業アルバムにみる日本近代医学の歩み：東京大学医学部・医学部附属病院創立150周年記念』(東京大学医学部・医学部附属病院創立150周年記念アルバム編集委員会、中央公論新社、2008年)など59点

業務日誌(抄)

(2014年2月～2014年7月)

2月7日(水)	総務課長・森本、見学出張(京都大学大学文書館)	5月20日(火)	情報学環、小川千代子氏の授業見学受入れ
2月11日(火)	村上、講演会「東大医学部・附属病院の155年」参加(医学博物館)	5月23日(金)	森本、山川健次郎資料について調査(理学部長室)
2月21日(金)	森本・谷本・村上、ガラス乾板資料の見学(小石川分館)	5月29日(木)	佐藤館長より、「佐藤慎一関係資料」、「文学部長室旧蔵資料」の受入れ
3月5日(水)	室員会議(本部棟)	6月4日(水)	経済学部資料室によるマイクロフィルム調査の対応
4月1日(火)	東京大学文書館設置	6月5日(木)	ソウル大学同窓会の見学対応
4月4日(金)	日本経済新聞社より、教養学部関連の取材対応	6月24日(火)	収蔵庫の空調24時間稼働開始
4月7日(月)	NHKより、学生問題研究所関連の取材対応	6月26日(木)	柏分館の器材設置
4月9日(水)	コーディネーター吉見副館長・ナビゲータ森本による学術俯瞰講義「新・学問のすゝめ—東大教授たちの近代」開始 全13回(駒場キャンパス)	7月1日(火)	谷本、柏分館勤務開始
4月28日(月)	館員打合せ	7月4日(金)	本館内データロガー計測開始
5月12日(月)	小宮山元総長資料の受入れ	7月14日(月)	森本、法人文書管理状況調査開始
5月15日(木)	森本・谷本、新図書館構想連携事業について打合せ	7月15日(火)	柏分館内データロガー計測開始

閲覧者数	学内者 22名 / 学外者 8名
主な学外閲覧者所属機関	お茶の水女子大学、九州大学、東京芸術大学、東京工業大学、東洋大学、北陸学院大学、立正大学、文京ふるさと歴史館
その他	文献撮影・複写許可 28件 / 調査(照会) 28件

照会内容のご紹介

学内や学外の方々からのご質問とその回答の一部です

その1

<ご質問内容>

明治時代の学生の持ち物(ノートや筆記具等)について調べています。当時の写真や物はありますか。

<回答>

明治期の写真帖では学生のスナップ写真がありますので、少し参考になるかと思われます。また、講義ノートについては柏分館で複数所蔵しております。また、明治初期の開成学校における語学教育で実際に用いていた教科書類は、本学総合図書館にありますので、ご参照下さい。

その2

<ご質問内容>

昭和18年の入学式について教えてください。

<回答と資料>

昭和18年10月1日、大講堂で入学宣誓式が挙行されました。午前9時から法、医、理、二工、10時から一工、文、農、経済学部に分けて挙行されました。内田総長の告辞です。1部総代生は理学部生、2部総代生は経済学部生でした。各30分程で閉式されました。帝大新聞には大講堂内での宣誓写真があります。資料：帝国大学新聞959(S18.10.4)

文書館トピックス

9月19日、全国歴史資料保存利用機関連絡協議会（全史料協）関東部会第278回定例研究会が山上会館で開催されました。

「大学における公文書管理の現状と課題—公文書管理法施行から3年を経て—」というテーマのもと、東北大学史料館・永田英明氏、当館・森本の二名による講演が行われ、最後の質疑応答では活発な意見が交わされました。

佐藤当館長の冒頭では、大学における公文書管理の必要性を伝えると共に、4月に設置された「東京大学文書館」の紹介も交えた挨拶でした。

森本の講演「東京大学文書館の設置—これまでの道のりとこれからの展望—」では、公文書管理法における指定機関登録に向けて取り組む中で直面する、日本の文書管理と公文書管理法のしくみにまつわる問題点を掲げ、アーカイブズの原則を用いての大学アーカイブズのあり方について考えさせられました。



写真：森本の講演風景

東京大学文書館ご利用案内

閲覧日：毎週火・水曜日

（ただし、祝日及び年末年始を除きます。また臨時休館もありますので、電話にてご確認ください）

閲覧時間：9:30～12:00、13:00～16:30

複写：電子複写は行っておりません。自影か自写に限ります。

場所：（仮移転先）

(1) 本館

東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学本郷キャンパス内 医学部 1号館 2階 SC201

(2) 柏分館

千葉県柏市柏の葉 5-1-5

東京大学柏キャンパス内 総合研究棟 6階 609号室

東京大学文書館ニュース 第53号

ISSN 0915-3284

発行日：2014年11月30日（年2回発行）

編集・発行：東京大学文書館

〒113-8654 東京都文京区本郷 7-3-1

電話：03（5841）2077（直）

http://www.u-tokyo.ac.jp/history/index_j.html

印刷所：株式会社ワーナー